

テイ・エス テック株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：輸送用機械等製造業 ● 事業概要：四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、二輪車用樹脂部品等の製造販売 ● 事業規模[任意]：連結売上425,794百万円、47法人、16,335人 <p style="text-align: right;">※2017年3月31日現在</p>
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>当グループでは、過去より環境保全活動を最重要課題の一つと位置づけ、製品の設計段階～生産にいたる過程での様々な改善により、事業を拡大する中においても、原単位でのCO2排出量削減に取り組んできた。</p> <p>今後の削減に向けては、当グループ方針として「照明のLED化100%」「R22フロン使用空調設備の全廃」を掲げ、削減活動を強力に推進中です。さらに、太陽光発電など再生可能エネルギーの積極的な活用を、埼玉工場で導入したことを皮切りに、グローバルへの展開を計画しており、これまでの活動継続に加え、これらの活動を通じ総排出量の削減を進める。</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>サプライチェーンでの詳細な温室効果ガスの発生状況を把握したうえで、当社としての削減方針を定め、当社の購買方針を説明する「取引先懇談会」や定期的な取引先との情報交換等を通じ、削減方針を共有しながらサプライチェーン全体での排出量削減に取り組む。</p>

テイ・エス テック株式会社

項目	内容																									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 (※割合は必須、グラフを挿入) 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : [tCO2] (任意) 0.2% 																								
	<table border="1"> <caption>GHG Emissions by Category</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリ1</td> <td>85.69%</td> </tr> <tr> <td>Scope3</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ10</td> <td>4.29%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ12</td> <td>1.54%</td> </tr> <tr> <td>Scope1,2</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ7</td> <td>0.12%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ6</td> <td>0.07%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ5</td> <td>0.17%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ4</td> <td>4.33%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ3</td> <td>0.23%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ2</td> <td>0.73%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	カテゴリ1	85.69%	Scope3	97%	カテゴリ10	4.29%	カテゴリ12	1.54%	Scope1,2	3%	カテゴリ7	0.12%	カテゴリ6	0.07%	カテゴリ5	0.17%	カテゴリ4	4.33%	カテゴリ3	0.23%	カテゴリ2	0.73%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : [tCO2] (任意) 2.6%
	Category	Percentage																								
カテゴリ1	85.69%																									
Scope3	97%																									
カテゴリ10	4.29%																									
カテゴリ12	1.54%																									
Scope1,2	3%																									
カテゴリ7	0.12%																									
カテゴリ6	0.07%																									
カテゴリ5	0.17%																									
カテゴリ4	4.33%																									
カテゴリ3	0.23%																									
カテゴリ2	0.73%																									
	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : [tCO2] (任意) 97% <p>目標の対象セクター : カテゴリ1、4</p>																									

テイ・エス テック株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各国で発生している気候変動に起因していると考えられる自然災害（大型台風・集中豪雨等）によって当グループの拠点が直接被害を受け操業停止になる可能性がある。さらに、部品点数の多い当グループ製品の製造には多岐にわたるサプライヤーからの部品供給が必要となるため、サプライヤーが被害を受けた場合にも、部品調達が滞ってしまい、生産停止になる恐れがある。 ● 昨今、お客様は環境に配慮した製品を購入する傾向にある。そのため、安全性や快適性を維持向上させつつ、さらなる軽量化や環境に配慮した材料研究等を推進することにより、当社の製品受注拡大のチャンスにつながる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動は世界各国に異常気象などの影響を及ぼしており、過去には当グループのタイ拠点において、異常気象を起因とした洪水被害を経験した。そのような背景の中、地球規模での気候変動が当グループの事業活動へ与える影響を最小限に抑えることに加え、持続可能な社会の実現に貢献できるよう、地球規模での環境取組みに賛同し、取り組む。 ● SBT取得により、ステークホルダーの要請へ積極的に対応することを通じ、存在を期待され「喜ばれる企業」を目指す。

テイ・エス テック株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標設定にあたり、自社のScope1～3の割合を分析。その結果、Scope3の割合が高く、中でも「購入した製品・サービス」が全体の80%を超えており、サプライチェーンの排出量調査を開始。SBTの掲げる目標値に対し、生産効率と投資対効果を鑑みたうえで、長期の投資計画が必要。よって、適切な時期に効果的なCO2排出量削減が見込める設備の投資含めた事業計画を立案し、社内取締役会の承認後、SBTイニシアチブへ提出するという方向でコンセンサスを得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 2050年目標：企業の成長に関わらず、現状より排出量を49%以上削減する具体的施策の実行。 ● Scope1.2削減：再生可能エネルギーの導入等、長期的な大規模設備投資。 ● Scope3削減：排出量削減に向けて、主要カテゴリのより精度の高い算出方法の構築。当社の製品特性上、部品が多岐にわたるため、精度の高いデータの積み上げ。